

令和健康科学大学

令和 7 年度については、「どんな試練や困難でも努力して乗り越えれば雨雲の上には青空が広がっている」という思いの「雲外蒼天」をキャッチフレーズに、教育研究活動、大学運営に努め、開学から 4 年目の完成年度を迎えた。

今年度、本学の取り組みとして、大学の教育研究の質を維持・向上させるため、組織的な点検・評価体制を強化した。具体的には、内部質保証推進要項の改定、外部評価委員会規程の制定、大学独自の評価項目の設定を行った。

また、大学運営の基盤となる組織体制の強化ならびに学生・教職員の安全・権利を守るための危機管理体制の強化、懲戒・禁煙に関する方針、教員人事委員会の設置に関する規定・規則の整備を行った。

その他、大学の社会的責任を果たすための点検・評価活動として令和 7 年 10 月に文部科学省による「大学設置履行状況等調査（実地調査）」への対応を行い、その結果について報告と共有を行った。社会情勢や教育ニーズの変化に対応し、柔軟かつ適切な教育運営のための基盤整備として、令和 9 年 4 月からの新カリキュラム改正を見据え、学則の変更案を学校法人巨樹の会へ上申し、審議のうえ承認を得た。

最後に、1 期生が初めて就職活動、国家試験に臨み、教職員にて支援活動・国家試験対策を講じ、看護学科、理学療法学科、作業療法学科ともに就職内定率、国家試験合格率について高水準を達成し、卒業生を輩出した。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針） Diploma policy

- (1) 医療職として、幅広い教養と人間愛（倫理観）及び生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけている。
- (2) 医療職として、自ら課題や疑問を発見し、これを科学的に解決する能力を身につけている。
- (3) 医療職として、高度な知識と技術及び多くの専門職と連携・協働するための能力を有し、実践力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針） Curriculum policy

- (1) 「人間愛・自己実現」という基本的倫理と幅広い教養を学修するための授業科目を基幹分野として開設する。
- (2) 科学的根拠に基づく医療を実践するための基盤として、基礎的及び専門的な知識を学修する授業科目を各学部で専門基礎分野として開設する。
- (3) 高度化かつ多様化する医療に対応するために、専門職連携教育を 1～4 年次にわたって臨地実習・臨床実習と連関させて学修する授業科目を開設する。
- (4) 各専門職の実践力を養うために必要な、かつ各学科の特色となる授業科目を専門分野に開設する。
- (5) 理論と実践を統合させた専門職性を培うために、1～4 年次にわたって多様性のある臨地実習・臨床実習を行い、実践力を養うための授業科目を学修進度に合わせて段階的に開設する。
- (6) 探究心を養うために、クリティカルシンキング（考える力）により、知識や技術の深化・統合、疑問に対して科学的に検証するための授業科目を開設する。

アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針） Admission policy

- (1) 医療に興味・関心をもち、深く学びたいという意欲のある者。
- (2) 人を尊重し、協調・共感しようとする気持ちを有している者。
- (3) 人と関わることが好きで、人の話をよく聴くことができる者。
- (4) 本学で学ぶために必要な基礎学力（思考力・判断力・表現力など）と学修態度を身につけている者。
- (5) 医療専門職の資格を取得し、広く社会で貢献したいとの意欲をもつ者。

1. 教育

計画（教育）

学部においては、設置計画を踏まえ、本学の特色を踏まえた実践的なカリキュラムを実施し、ICT 教育を含めた教育内容、方法の充実を図る。また、教育成果の指標である国家試験合格に向けた指導を行う。加えて、本学の目的に照らして、基幹分野を含む各学科のカリキュラムの見直しを進める。

大学院においては、設置計画を踏まえ、教育研究の充実を図る。

実施状況

事業計画に基づき、教育課程の編成及び実施を推進した。また、すべての科目について開放を行った。

令和 7 年 5 月 1 日時点の学生数は下記のとおりである。

学部・学科	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
看護学部看護学科	98 名	88 名	73 名	84 名	343 名
リハビリテーション学部 理学療法学科	81 名	88 名	79 名	58 名	306 名
リハビリテーション学部 作業療法学科	27 名	39 名	49 名	23 名	138 名
計	206 名	215 名	201 名	165 名	787 名

(休学者数を含む)

1) 新カリキュラム編成

今年度 11 月までに 7 回のカリキュラム検討部会を開催し、令和 9 年度のカリキュラム改正に向け、指定規則と照らし合わせながら各科目群の内容を精査した。

12 月の両学部教授会及び全学教務委員会への報告・審議を経て 2 月 19 日の大学運営会議にて審議、承認となった。その後、3 月 27 日の学校法人巨樹の会理事会にて審議、承認となり、今後、文部科学省に届出並びに変更承認申請を令和 8 年度の 5 月末までに行う。また、令和 8 年 4 月 1 日付で自由科目の追加に伴う、学則改訂を行った。学科でも自由科目追加ができるよう学則の整備を行い、3 月 6 日の大学運営会議にて審議、承認となった。その後、3 月 27 日の学校法人巨樹の会理事会にて審議、承認となった。

2) 学力向上プログラム部会の継続

学力向上部会を中心に入学時のプレイスメントテストの結果を分析して、各学科での学生指導に活かし、また、リメディアル教育を含めた新入学生の学力向上の効果的な方法を検討した。

3) 授業アンケートの整備

FD/SD 委員会からの依頼を受け、授業アンケート実施期間の終了日について検討を行った。審議の結果、ポータルサイトの掲出開始日は最終コマのその前の回の日からとし、定期試験終了日から 1 週間後までを掲出終了日として設定することとした。後期より運用を行い、回答率の向上を図った。

また本年度前期の授業アンケート回答率は FD/SD 委員会にて報告し、回答率向上を向けた取組として各学科会議にて共有し、対応を行った。

検討を続けてきた授業評価に関する要項については、2 月 1 日付で施行が承認され、運用を開始した。

4) シラバスの整備

シラバスのチェック体制作りを行った。シラバスチェックリストの作成を行い、令和 8 年度シラバスは教員による自己チェックを行った。来年度以降は第三者チェックを行えるように整備していく予定である。

5) 学修成果の明示

学生が自身の DP 達成率を可視化できるように、各学科 DP ルーブリック評価表を作成し、ポータルサイト上で学生が評価できるようにした。また、「DP 到達度評価マニュアル」を作成し、令和 7 年度卒業対象者から運用を開始した。

大学院については定例の「大学院研究科運営会議」と「大学院研究科委員会」を適切に実施し、大学院教育の円滑な運営を実現した。なお「大学院研究科運営会議」には 4 つの修学コースごとにコース長を定めて、各コース内ならびに各コース間での教員の連携を深める教育・運営体制を整えており、組織的な連携に基づく大学院運営を目指し取り組んだ。

新たに大学院設置申請（AC）にともなう教員資格審査において、研究指導資格を有する教授 1 名ならびに准教授 2 名を「大学院研究科委員会」のメンバーとして迎え入れ、教員体制を充実させた。

入学試験状況

コース名	志願者	合格者	入学者
実践看護学コース	14 名	6 名	6 名
看護学人材育成コース	5 名	4 名	4 名
心身機能支援コース	2 名	2 名	2 名
生活支援コース	1 名	1 名	1 名
計	22 名	13 名	13 名

計画（学生支援）

学部においては、学生の正課外活動支援、経済支援を行うとともに、キャリア支援のさらなる充実を図る。特に、就職及び国家試験合格に向けた支援に取り組む。特に、保護者との連携による学生支援を行う。

大学院においては、学生の状況に応じた学生支援を推進する。

実施状況

学生生活の充実化・支援を図るため以下の方策を実施した。

1) 学生支援

学生の大学での生活においては、正課教育と共に正課外の生活が重要である。投書箱を導入し、その他、学生アンケートを通じて、学生の声・問題点を拾い、実施・対応可能な範囲で問題解決に取り組んだ。

本学では、学生委員会と学務課学生係が中心となって、正課外を含む学生支援活動を展

開した。今年度は初めての国家試験受験にむけて、事務局での受験手続支援、教員による国家試験対策指導を実施し、その結果高い合格率へと繋がった。

学生支援活動の詳細は、以下のとおりである。

(1) 学生指導

- ・学内・学外における禁酒禁煙、道路横断禁止に関する指導
学生委員会で大学方針を検討・承認し、次年度から学内全面禁煙を適用
- ・寮生活における共用部の使用ルールに関する指導
- ・更衣室内のロッカー施錠、後片付けに関する指導

(2) 学生課外活動に関すること

- ・大学祭の開催（令和 7 年 11 月 1 日 開催）
第 3 回の開催となる大学祭は「桜梅桃李」をテーマに、来場者が約 700 名となり、参加型のイベントや、サークルによる屋台・キッチンカー出店、スペシャルゲストライブを企画した。
昨年に続き、多数の企業より協賛をいただき、地域住民の皆様や高校生、本学生と多くの方にご来場をいただいた。
- ・「博多どんたくイベントステージ」への参加
- ・「ユースフェスタ東区」への参加
- ・サークル数：11 サークル
- ・海外研修の実施
令和 8 年 3 月に韓国（釜山）及びカンボジアへの海外研修を実施した。主な研修内容としては、韓国研修では、恩城医療財団グループの医療施設での見学実習を実施し、カンボジア研修ではアンコール小児病院での地域保健予防活動（コミュニティアクティビティ）を体験した。それぞれ他国の文化に触れることで国際的視野と専門職としての意識向上を図ることができた。

(3) 学生への支援に関すること

特待生制度では、授業料の半額または 1/3 を免除する制度として運用している。1 年次の特待生は一般選抜（前期）等の入学試験成績上位者から選抜し、2 年次以降は前年度の学業成績（GPA）に基づき選考している。令和 7 年度は 1/2 免除者 43 名、1/3 免除者 40 名、計 83 名を選出した。なお、在学生 787 名に対して約 10.5%に相当する。特待生は学業成績が優秀な学生で構成されており、制度の運用により学修意欲の向上に寄与している。

奨学金制度では、日本学生支援機構の奨学金（貸与・給付）を利用している学生が 538 名（67.3%）にのぼり、あしなが育英会（0.1%）、長崎県育英会（0.1%）、熊本県看護師等修学資金（0.3%）、北九州市奨学資金（0.1%）など、地域に根ざした制度も活用した。

また、本学は国の「高等教育の修学支援新制度」の対象校であり、授業料減免や入学金免除の制度を利用する学生は 235 名（29.4%）に達し、これらの制度により、学生の経済的負担が軽減した。

奨学生数、および種別内訳は下記のとおりである。

学科（内訳）	令和 7 年度
看護学科	
給付	113 名
第一種（無利子）	106 名
第二種（有利子）	51 名

理学療法学科	
給付	88 名
第一種（無利子）	20 名
第二種（有利子）	13 名
作業療法学科	
給付	53 名
第一種（無利子）	48 名
第二種（有利子）	22 名
総計	514 名

本学独自の特待生数は以下のとおりである。

（授業料 1/2 免除）

学科（内訳）	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
看護学科	0 名	6 名	1 名	8 名
理学療法学科	2 名	6 名	6 名	6 名
作業療法学科	0 名	5 名	1 名	5 名
計	2 名	17 名	8 名	19 名

（授業料 1/3 免除）

学科（内訳）	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
看護学科	5 名	8 名	0 名	5 名
理学療法学科	7 名	2 名	0 名	3 名
作業療法学科	3 名	2 名	0 名	2 名
計	15 名	12 名	0 名	10 名

（4） 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること

昨年度より継続して、合理的配慮を希望し申請した学生（延べ 21 名）に関し、障害学生支援連絡会議を招集し、個別の議論を行い配慮提供の内容を検討した。

前期 9 名、後期 12 名（前期からの継続申請を含む）の学生から合理的配慮の申請があり、障害学生支援連絡会議において配慮内容を審議・決定した。

全学生に対して学生本人および保護者の同意を得た上で配慮を実施し（合理的配慮提供率 100%）、適切な支援体制が機能していることを確認した。学生の申請から配慮実施までに要した日数は平均 60.9 日であった。その結果、合理的配慮を申請した学生の多くは、慢性疾患、精神疾患、発達障害等の背景を有しており、医療機関、学生相談室、保健室、各学科教務と連携しながら、物理的・社会的障壁を低減する支援を行っていく。また、障害のある学生だけでなく、慢性疾患・メンタルヘルズ課題・家庭の事情等、多様な背景を持つ学生への個別支援体制の充実を図る。学内連携の明確化、外部支援機関との連携の整備を推進した。

（5） 国家試験対策について

本学では初めて国家試験受験に臨み、第 115 回看護師国家試験へ看護学科より 82 名、第 61 回理学療法士国家試験へ理学療法学科より 56 名、第 61 回作業療法士国家試験へ作業療法学科より 18 名受験した。

結果、看護学科 82 名（合格率：100%）、理学療法学科 55 名（合格率：98.2%）、作業療法学科 18 名（合格率：100%）の合格となった。

（6） 新入生歓迎会

令和 7 年 5 月 22 日に、本法人理事長ならびに本学が主催で学生食堂、中庭を使用し、「新入生歓迎会」を開催した。

(7) 健康支援センター学生相談活動
【利用件数一覧】（令和7年3月31日時点）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総面接回数 利用人数	11回 7名 [5]	13回 9名 [4]	12回 8名 [1]	18回 9名 [1]	6回 4名	9回 4名	19回 6名 [2]	12回 5名	15回 7名 [2]	13回 7名 [1]	9回 6名 [1]	9回 4名
(内訳)												
学生	6名 [5]	6名 [2]	6名 [2]	6名 [1]	2名	2名	4名 [2]	2名	4名 [1]	5名 [1]	4名 [1]	2名
看護学科	3名 [2]	5名 [2]	4名 [1]	6名 [1]	2名	1名	4名 [2]	2名	3名	3名	2名	2名
1年生	2 [2]	2 [1]	2 [1]	4 [1]	1	0	2 [1]	1	2	2	1	1
2年生	1	1	1	1	0	0	1 [1]	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	0	2 [1]	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
理学療法 学科	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名 [1]	2名 [1]	2名 [1]	0名
1年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3年生	0	0	0	0	0	0	0	0	1 [1]	1	0	0
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1 [1]	2 [1]	0
作業療法 学科	3名 [3]	2名	1名 [1]	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
1年生	2 [2]	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年生	0	1	2 [1]	0	0	1	0	0	0	0	0	0
3年生	1 [1]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院生	0名	1名 [1]	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
教職員	1名	1名 [1]	0名	1名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名
紹介状等 作成	1件	0件	1件	0件	0件	0件	0件	1件	0件	0件	0件	0件

[]新規開始人数

(学生相談内容) 学業、進路・就職、対人関係、心理・性格・適応・不満、精神衛生・心身健康、経済問題、ハラスメント、性の問題

2) キャリア支援

学生自らが主体的に将来を選択し、実現へと導くことのできるキャリア及び就職支援を実施した。

(1) 就職活動支援

- ・3年次、4年次の各学科の学生に対して、病院説明会、就職試験対策講座、応募書類添削、面接練習を行った。また、学科の担任、アドバイザーと協働して学生の希望に合った求人の紹介を行った。

(看護学科) 就職希望者数：76名 内定者数：76名 就職率：100%
進学者数：4名

(理学療法学科) 就職希望者数：56名 内定者数：55名 就職率：98.2%

(作業療法学科) 就職希望者数：18名 内定者数：18名 就職率：100%

(2) 入学後早期からのキャリア教育

- ・入学後早期からのキャリアの意識付けのために病院による説明会や就職対策講座(ミライパス)の開講

(3) 病院、企業への大学への広報と求人の獲得

- ・大学ホームページの就職支援ページの整備を行い、多くの病院、企業からの求人が届いた。また、病院等からの求人票の適切な管理運用を行った。

(4) キャリア面談の体制強化

- ・係員のキャリアに関する知識の習得
- ・キャリア面談に関する認知向上

(5) ニーズに合った学内就職イベントの実施

- ・大学と病院又は企業との交流
- ・学生のニーズに合った、合同就職説明会の実施

キャリア面談実績(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

相談項目	令和6年度	令和7年度	増減	傾向
進路について	39件	37件	-2	進路相談は依然として多いが微減
就活準備について	35件	20件	-15	早期準備の浸透により減少の可能性、就活スタート講座を本格的にスタートする1か月前に変更した
履歴書・エントリーシート添削	31件	52件	21	書類選考対策の需要が増加(書類選考試験等)
自己分析について	16件	35件	19	自己理解のニーズが増加と1期生の声で自己分析の重要性について浸透した可能性あり
インターンシップ	9件	0件	-9	早期準備の浸透により減少の可能性
その他	1件	18件	17	面接練習の依頼が増加

就職説明会・セミナー実績(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

・カマチグループ オンライン就職セミナー

本学学生の就職活動に向けて、病院理解促進と病院研究の機会提供と就職活動の意識向上を目的として、オンライン型式による就職セミナーを実施した。

日時：令和7年12月19日(金) 4限目・5限目講義時間

形式：Zoom

対象：リハビリテーション学部生

出展：九州地区・関東地区カマチグループ施設

・令和7年度 看護学部合同就職説明会

日時：令和7年12月22日(月)、12月23日(火) 10:30～14:30

場所：令和健康科学大学 体育館

対象：看護学科3年生

参加病院：12月22日…カマチグループ病院15施設+2分野

12月23日…一般病院26施設

2. 研究

計画

教員個々が自らの研究基盤に基づき、科学研究費補助金を含めた外部資金の獲得を目指すよう、支援を行う。また、カマチグループとの連携をより深めることで実践的研究を推進する。

実施状況

本学が、将来にわたり高度な教育研究を維持し、健康科学全般の実践的研究を推進するため、科学研究費補助金の獲得等を支援するとともに、学外機関との共同研究推進を進めた。それに伴い科学研究費補助金の適切な執行について内部監査を実施した。

また、全教員に対する個人研究費の配分に加え、大学支援研究費による外部資金獲得のための取り組みを推進させた。さらに、研究委員会 FD 研修を実施し研究倫理について、法令遵守にとどまらず倫理的な判断と行動を学ぶ機会とした。

その他、引き続き FD・SD 活動として、2 年ごとに教員、事務担当者を対象に、一般財団法人 公正研究推進協会の e-ラーニングの受講を行った。大学の個人研究費について、開学より本学専任教員へ 4 年間、職位ごとに同額の個人研究費を設けてきたが、本学の経営状態を鑑み、中期的な財政健全化を確保するため個人研究費支給額の見直しを実施した。

1) 科学研究費補助金（科研費）の採択状況

本学が標榜する健康科学に関する個々の教員の研究課題を推進する観点より、科研費の獲得を目指した。科研費への効果的な申請を支援するために、外部資金獲得支援のための動画講座を導入した。

令和 7 年度の採択状況は、以下のとおりである。

学部	新規	左記内訳	継続	左記内訳	科研費獲得額
看護学部	代表 1 件 分担 3 件	基盤 C 3 件 若手 1 件	代表 11 件 分担 11 件	基盤 B 2 件 基盤 C 19 件 若手 1 件	直接経費 38,998,772 円 間接経費 6,403,629 円
リハビリテーション学部	代表 1 件 分担 5 件	基盤 B 1 件 基盤 C 5 件 若手 1 件	代表 14 件 分担 11 件	基盤 C 18 件 若手 6 件 挑戦的萌芽 1 件	

2) その他の外部資金助成について

機関	研究種目	学部	直接経費	間接経費
国立研究開発法人 エネルギー・産業技術総合開発機構	受託研究（継続）	リハビリテーション学部	12,586,000 円	3,775,000 円
日本緩和医療学科	研究寄附金（継続）	リハビリテーション学部	1,787,631 円	0 円
日本作業療法教育学会研究助成	研究寄附金（継続）	リハビリテーション学部	8,187 円	0 円
デサントスポーツ研究助成	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	500,000 円	0 円
デサントスポーツ研究助成	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	500,000 円	0 円

機関	研究種目	学部	直接経費	間接経費
日本作業療法教育学会	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	500,000 円	0 円
勇美記念財団	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	450,656 円	0 円
勇美記念財団	研究寄附金（新規）	リハビリテーション学部	817,000 円	0 円

3) その他

本学と関東カマチグループ施設との間でレジストリ研究の共同実施に向け、協議・検討を進めた。次年度より各法人間で協定書を締結し、研究実施に向けてシステム、個人情報保護の保護、各種手続き手順等についてさらに検討を進める。

3. 地域連携・社会貢献

国内外の大学等や地域との連携、交流をさらに進める。また、他大学、他機関との共同研究等の連携を進める。

実施状況

本学を取り巻く国内外の大学等、地域及び他の教育機関等との連携を図った。

1) タイ・マヒドン大学 2名の短期研修受入

2025年5月19日から5月30日にかけて本学にてタイ・マヒドン大学より2名の学生の短期研修を行った。リハビリテーション学部 理学療法学科の実習・演習等に参加し、最終日には修了証の贈呈式を行った。

2) アビスパ福岡が推進する社会連携活動「TAKE Action Fukuoka（シャレン）」の参画

昨年度よりリハビリテーション学部作業療法学科とアビスパ福岡と「シャレンパートナー」契約の締結を行い、学生主体のイベントの実施を重点目標とし、アビスパ福岡営業担当者と連携し活動を進めた。

(1) すこやか交流広場の企画・開催

- ・2年生を中心に3月より準備を実施

2025年11月15日（土）に初開催

地域住民22名が参加

参加者より前向きな評価が寄せられ、学生からも「楽しかった」「学びになった」との声が多く、第2回開催へ向けて12月より準備会議を再開

(2) 研究活動への波及

- ・学生卒業研究テーマ

「小学校・中学校の不登校児童生徒への学校支援」（2025年9月24日発表）

- ・教員研究課題

「ベスト電器スタジアムキャプション評価」

→ 学術誌『作業療法・福岡』掲載決定（2026年3月予定）

- ・第38回教育研究大会にて、作業療法学科としてシャレン活動を発表

（2025年10月18日／教員8名・学生26名）

- (3) 広報・教育活動との連携
- ・教員名刺へシャレンロゴを継続掲載
 - 「地域作業療法」授業において、シャレン参加報告書提出を課題加点対象とした
- (4) 企業・自治体との協働
- ・アルファビリティ株式会社と共同で厚生労働省モデル事業へ参加
(就労世代の歯科健康診断／歯周病検査／教員・学生 93 名参加)
 - ・NTT ドコモ企画「ドコモ未来フィールド」での共同イベント参加
(アビスパ福岡・NTT ドコモ・福岡和白病院・本学作業療法学科の 4 者共同
2025 年 12 月 7 日／教員・学生 6 名参加)

3) 福岡工業大学との協定

大学共通テスト利用選抜の実施にあたり、福岡工業大学と共同実施する形態をとる旨の協定を、福岡工業大学と締結し、4 年目にあたる。

4) 学内献血の実施

令和 7 年 10 月 30 日（木）に本学として初めての学内献血イベントを開催した。日本赤十字社をはじめ、福岡和白病院、福岡花ライオンズクラブなどの協力のもと、事前の広報活動や学生への周知を行い、当日は受付者数：80 名、献血協力者数：70 名の結果となった。

4. 組織運営 計画

学長のリーダーシップのもと、教授会、各種委員会等において、大学を取り巻く諸課題の解決に取り組むとともに、適切な情報公開を進める。また、内部質保証の活動を具体的に進める。

実施状況

1) 大学運営会議

本学の運営に関する重要事項を審議するとともに、法人との連携を深めるために、計 23 回の大学運営会議を学長の主導により開催した。議題一覧は下記の通りである。

回数	開催日	事項	議題
1	4 月 17 日	審議	・令和健康科学大学 内部質保証推進要項(案) ・教員後任人事の件 ・スチューデント・アシスタント規程の制定 ・全学委員会への助教の参加について(申し合わせ事項) ・無料職業紹介事業のための業務規程および職業紹介業務に係る個人情報管理規程の制定について
		報告	・令和 7 年度令和健康科学大学 大学院・2 学部 3 学科の体制について ・大学院教育開始の現況 ・学生による授業評価結果の活用について ・「リハビリテーション教育評価」の審査について ・リハビリテーション学部作業療法学科入学定員変更に関する届出の進捗状況

回数	開催日	事項	議題
2	5月1日	報告	・令和6年度 事業報告書（案）進捗状況の報告について ・学生委員会報告 ・マヒドン大学短期研修スケジュール ・「医療を考える講演会」延期について
3	5月15日	審議	・本学の内部質保証に関する取り組みを補完するための外部評価委員会規程の制定について（趣旨と規程案）（ ・文部科学大臣が認証する評価機関の認証評価における本学独自の評価項目について
		報告	・入学試験委員会からの報告 1) 令和8年度入学者選抜 学校推薦型選抜（指定校等）の選定基準等および通信制課程の取扱いについて 2) 入学試験中の校舎内・構内立入等の取扱いについて ・認証評価 自己点検評価書における根拠資料（エビデンス）について
4	6月5日	審議	・障害学生支援連絡会議での合理的配慮の決定事項の承認について
		報告	・『第4回 医療を考える講演会～キャリアと多職種連携を考える会～（案）』の日程について ・大学院 学生研究支援研究費に関する申し合わせについて ・令和7年度 大学支援研究費助成金の採択者について ・第1回 AC 教員審査の結果について ・令和9年度以降の学部入学者選抜における小論文試験問題の出題体制等について ・令和7年度の広報活動・計画について 1) 令和7年度 オープンキャンパス内容について 2) リクルート夏期特別企画について 3) 令和7年度 入試倍率について 4) 地域貢献案件について ・学校法人巨樹の会 ガバナンス・コードについて ・大学事務局長人事について
5	6月19日	審議	・看護学部の人事について 1) 成人看護学領域（慢性期）教授の公募 2) 看護学部内部昇格人事の実施について
		報告	・国際化推進委員会活動報告 ・定期試験時の追試験対象における忌引きの対象範囲の拡大およびドナー公欠制度の導入について ・各学科の就職活動及び内定状況について
6	7月3日	審議	・令和健康科学大学紀要の創刊について ・令和健康科学大学危機管理委員会設置について
		報告	・1号館2階 旧女子ロッカー室の利用について ・2025年度恩城医療財団グループ相互訪問について ・大学院学生募集に関する広報活動について
7	7月17日	審議	・懲戒処分の公表に関する指針の策定について ・アドバイザー配置の制定および規程改正について
		報告	・大学院特定行為研修管理委員会内規の制定について ・ハラスメント対策講習会およびアンケート実施について ・第4回大学祭企画書(案)および組織図(案)について ・2025年度 国際交流について ・令和7年度 設置計画履行状況等調査における実地調査の日程について ・大学評価委員会 令和7年度活動計画について

回数	開催日	事項	議題
8	8月7日	審議	・健康経営支援チーム（HPMT: Health & Productivity Management Team）発足について ・教員等選考規程および教員等選考内規の改正について ・学生の個人情報保護に関する内規（案）の制定について ・看護学部 内部昇格人事の実施について ・障害学生支援連絡会議における合理的配慮の決定事項の承認について
		報告	・令和7年度 公的研究費の内部監査の実施について（ ・衛生委員会におけるストレスチェックの実施について ・大学院 令和7年9月 AC 教員審査（申請）について（ ・令和7年度 設置履行状況等調査への対応について
9	8月21日	審議	・令和健康科学大学 教員再任審査の結果について ・看護学部 成人看護学(慢性期)教授職 採用審議のお願い
		報告	・大学院入学試験の事前説明会・相談会への参加実績および出願状況について ・2025年9月 恩城医療財団グループとの交流訪問スケジュールについて
10	9月4日	審議	・教員人事委員会規程について ・令和健康科学大学 学則等の改廃について
		報告	・理学療法学科人事について ・令和7年度第2回 AC 教員審査 結果について
11	9月18日	審議	・令和健康科学大学における禁煙方針案について ・精神看護学領域 講師公募について
			・令和7年度 前期成績判定について
			・令和健康科学大学 看護学部生対象合同就職説明会について
			・令和7年度避難訓練の実施について ・全学委員会委員の変更について
12	9月25日	報告	・令和8年度 大学院第1次募集入試判定報告
13	10月9日	審議	・障害学生に対する合理的配慮の提供について ・令和健康科学大学 NP コース委員会規程の制定について
		報告	・新入生および在学生 学生アンケート集計結果について ・2027（令和9）年度 学部の入学者選抜日程について ・令和8年度入試 総合型・社会人選抜の出願者数について ・第4回 令愛祭についての進捗報告
14	10月24日	報告	・令和8年度 学部・総合型選抜入試 判定報告
15	11月6日	審議	・R8.4より精神看護学領域 講師採用について
		報告	・令和7年度 大学設置履行状況等調査（実地調査）に関する報告 ・恩城医療財団グループ訪問について ・第2回良平アワード開催について ・第4回大学祭報告
16	11月20日	報告	・第3回 AC 教員審査 結果について ・KG オンライン就職説明会について ・学籍異動について ・令和8年度入試 総合型選抜の入学手続者数および学校推薦型選抜の出願者数について
		審議	・障害学生支援連絡会議での決定事項について
		報告	・学校推薦型選抜入試 判定報告 ・文部科学省実地調査について（学校法人巨樹の会）
18	12月11日	審議	・令和7年度補正予算（案）について ・大学院 臨床教授等称号付与規程等の制定について
		報告	・令和8年度大学院第1次募集追加試験の合否判定について

回数	開催日	事項	議題
19	1月15日	審議	・SNSにおけるハラスメント防止に関する規程(案)について ・合理的配慮の決定事項について
		報告	・令和8年度入試 一般選抜(前期)および大学入学共通テスト 利用選抜の出願状況について
20	1月30日	審議	・合理的配慮の決定事項について ・看護学部 教員選考委員会開催について
		報告	・卒業判定報告について ・停電点検実施について
21	2月9日	審議	・リハビリテーション学部の内部昇格人事について ・看護部の人事2件について ・本学授業評価に関する要項の制定について
		報告	・一般入試前期 合格判定報告について ・学籍異動について ・令和7年度 第4回AC教員審査 審査結果について
22	2月19日	審議	・令和8年度予算(案)について ・令和9年4月改訂 新カリキュラム改正にともなう学則の変更について ・令和8年度本学大学院学則の変更について ・令和8年度本学大学院健康科学研究科における入学資格に関する 規程の制定について
		報告	・令和8年度入試状況報告(一般前期共テ手続き、一般後期Ⅰ出願) ・当面の内部昇格人事の取扱いについて ・令和8年度 令和健康科学大学 人事体制について ・令和健康科学大学図書館文献複写規程について ・危機管理発生時における情報伝達体制の再構築および 事業継続計画(BCP)の運用高度化について
23	3月6日	審議	・看護学部人事(小児看護学および成人看護学 助教)について ・リハビリテーション学部の内部昇格人事について ・理学療法学科 自由科目追加に伴う令和8年4月からの 本学学則改正について ・個人研究費規程の改定について
		報告	・令和8年度一般入試後期 判定報告 ・令和7年度大学評価(中間評価)結果 及び認証評価に向けての スケジュールについて ・科研費を含む外部資金の大学ホームページ公表について ・令和8年度 大学運営会議開催日程【案】
24	3月26日	審議	・本学と関東カマチグループとのKGDBに関する包括協定書について ・大学院健康科学研究科における入学資格に関する規程
		報告	・大学院学則における休学時の在籍料における再検討について ・令和7年度後期 看護学科1年生 生活援助実習報告 ・リハビリテーション評価機構の審査結果について ・令和8年度前期各オリエンテーション及び新入生歓迎会について ・令和9年度一般選抜(前期)A日程における地方会場設置の有無について ・令和8年度入試状況報告 ・令和8年度 事業計画書(案)について ・(7.2.1)大学入学者選抜規則の改正について ・令和8年度 全学委員会委員名簿について

2) 委員会活動

各々の課題について審議を行い、大学運営会議の審議を経て実施した。

3) FD・SD 活動

本学の教育研究の質の向上を図り、また課題の解決を図るために、様々な研修会が企画、運営された。今年度は事務部にて研修チームを結成し、計 5 回の教職員向け研修を実施した。

実施状況は、次の通りである。

<全学 FD/SD>

開催主体	事務部 総務課 総務係	事務部 総務課 総務係	ハラスメント対策委員会
開催日時	4 月 1 日 (火)	4 月 29 日 (火)～ 5 月 31 日 (土)	9 月 10 日 (水)
目的	学長挨拶、教員紹介、新入教職員辞令交付、教員オリエンテーション（カマチグループ紹介、事務組織、教務係・総務係からの連絡、研究費、倫理関係）。 大学への帰属意識や教員団の一員としての自覚を醸成し教育研究力の向上を図った。	研究倫理に関する知識の理解度向上を図る。	主に「セクシュアルハラスメント」および「妊娠・出産等に関するハラスメント」「パワーハラスメント」「アカデミックハラスメント」について、教職員として正しく理解し、どのように取り組むかについて学ぶ。
外部・内部 所属・講師			社労士事務所ジェントリー 代表 吉田明文 様
実施方法	対面	e ラーニング	講義
参加人数	新入教員 7 名、 新入事務職員 1 名	教員 23 名 大学院学生 12 名 事務職員 2 名	当日出席 76 名 録画視聴 26 名

開催主体	事務部研修チーム	事務部研修チーム	事務部研修チーム	事務部研修チーム
開催日時	11 月 19 日 (水)	12 月 17 日 (水)	1 月 14 日 (水)	1 月 22 日 (木)
目的	テーマ： 大学と大学で働くことについて考える	テーマ： 大学評価を知る	テーマ： FD・SD の違いとは大学の単位制度と 1 単位 45 時間の考え方について	テーマ： 「価値観の共有」
外部・内部 所属・講師	<内部> 本学企画室 江島定人 室長	<内部> 本学企画室 江島定人 室長	<内部> 本学教務係 浦雄一 副主任	<内部> 本学キャリア支援係 桑原優斗 副主任
実施方法	講義	講義	講義	講義
参加人数	10 名	28 名	24 名	10 名

開催主体	事務部研修チーム	FD/SD 委員会	広報委員会
開催日時	1 月 23 日 (金)	2 月 6 日 (金)	2 月 12 日 (木)、2 月 18 日 (水)、2 月 26 日 (木)
目的	テーマ： 「他者から見た自分」	ティーチング・ポートフォリオ・チャート (TPC) の理解を通して、自分の教育活動をとらえなおし、よりよいあり方を描く。	広報活動においては、戦術・戦略の方向性や内容が募集結果へ直結するが、対応する広報担当者の個々のスキルも付随して重要であり、そのスキルの底上げをすることで、効果の最大化を得られる可能性がある。それらを踏まえ、定期的に担当者間での広報スキルの向上を目指す。 今回、各学科の取り組み、職業の魅力、高校の取り組み、ガイダンスにおける対応について各学科教員による研修を行った。

外部・内部 所属・講師	<内部> 本学キャリア支援係 桑原優斗 副主任	<内部> 本学看護学部 竹元仁美 看護学科長 教授	<内部> 本学 田中悟郎 作業療法学科 教授 齋藤貴文 理学療法学科 講師 竹元仁美 看護学科長 教授
実施方法	講義	講義・演習	講義
参加人数	4 名	10 名	7 名、8 名、13 名

開催主体	研究委員会	事務部研修チーム	FD/SD 委員会
開催日時	2 月 26 日(木)	2 月 26 日(木)	3 月 17 日(火)
目的	研究活動に関わる者を対象として、研究活動の不正行為を未然に防ぎ、公正な研究活動を推進について研修を行う。	テーマ： 規程を読む	テーマ： 活動性を高める授業づくり － 協同学習の理論と方法 －
外部・内部 所属・講師	<外部> 福岡大学病院 臨床研究支援センター 野田慶太 教授	<内部> 本学企画室 江島定人 室長	<外部> 久留米大学 文学部 安永 悟 教授
実施方法	講義	講義	講義・ディスカッション
参加人数	教員：52 名 事務職員：7 名	24 名	45 名

<看護学部 看護学科 FD>

	第 1 回	第 2 回
名称	国家試験対策教員セミナー	看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づくコンピテンシーの評価方法
対象	看護学科教員	看護学科教員
開催主催	看護学科国家試験対策委員会	一般社団法人日本看護系大学協議会
開催期間	5 月 15 日(木)	7 月 14 日(月)
目的	第114回看護師国家試験の振り返り、第115回看護師国家試験の対策、アドバイザーの役割、本学の学生の特徴に沿った支援方法などを講話いただき、アドバイザーの学習支援に活用していく。	看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和 6 年度改訂版の発出を受けて、現在、教学マネジメントやカリキュラムの見直し・改訂を検討中の教育課程に対して、アセスメントプラン等参考となる情報の提供。
実施方法	対面	オンライン
外部・内部 所属・講師	さわ研究所代表 さわ和代 様	・西村礼子 様 実践能力評価基準検討委員会副委員長、東京医療保健大学医療保健学部教授) ・鎌倉やよい 様 (JANPU 常任理事)
参加人数	20 名	13 名

	第 3 回	第 4 回
名称	看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版の活用に向けて	合同臨地実習担当者会議
対象	看護学科教員	実習受入施設の実習担当者
開催主催	文部科学省 高等教育局 医学教育課	看護学科実習調整委員会
開催期間	7 月 30 日(水)	8 月 27 日(水)
目的	看護学教育モデル・コア・カリキュラムと改訂の経緯ならびに活用についての情報の提供。	看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和 6 年度改訂版の発出を受けて、現在、教学マネジメントやカリキュラムの見直し・改訂を検討中の教育課程に対して、アセスメントプラン等参考となる情報の提供。
実施方法	オンライン	対面
外部・内部 所属・講師	鎌倉 やよい 様 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた連絡調整委員会委員長 JANPU 常任理事	
参加人数	7 名	36 名、34 施設 41 名

	第 5 回	第 6 回
名称	今年度の入試戦略について ＜看護学科会議 (令和 7 年度第 7 回)＞	医療を考える会 2025 ～キャリアと多職種連携を考える～
対象	看護学科教員	カマチグループ看護部門
開催主催	看護学科	看護学科教員・カマチグループ看護部門
開催期間	10 月 9 日(木)	10 月 29 日(水)
目的	オープンキャンパスにおける動員数、養成校との競合比較、参加高校城興昨年度からの違い、受験移行率、総合型選抜入試状況、養成校との競合について。 また教員のオープンキャンパスでの対応は、受験移行率の回復や総合型選抜出願者具体的な成果につながっている点など、報告ならびに対策について共有。	医療従事者のキャリアとその可能性について、その人らしさを支えるカマチグループ地域医療への取り組みなどの基調講演、セッションを通じ、キャリアと多職種連携を考えていく。
実施方法	オンライン	対面・オンライン
外部・内部 所属・講師	事務部 学務課 入試・広報係 河江大樹 副主任	看護学科 児玉裕美 准教授 看護学部長 辻慶子 教授 リハビリテーション学部長 稲川利光 教授
参加人数	36 名	36 名

＜リハビリテーション学部 理学療法学科 FD＞

	第1回	第2回	第3回	第4回
名称	カリキュラム改正に関する討論会	学問サキドリプログラムの結果報告会	プレイスメントテストの結果報告会	実習の質向上のための意見交換
対象	理学療法学科教員	理学療法学科教員	理学療法学科教員	理学療法学科教員
開催主催	理学療法学科	理学療法学科	理学療法学科	理学療法学科 実習調整係
開催期間	4月24日（木）	5月12日（月）	5月22日（木）	8月28日（木）
目的	カリキュラム改正に関する背景を理解すると共に、現行カリキュラムの問題点と改善策について検討するため。なお、様々な意見が聞かれ、非常に有意義な討論会となった。	学問サキドリプログラムの結果の見方を理解し、学生指導に役立てるため。	プレイスメントテストの結果の見方を理解し、学生指導に役立てるため。	実習後の教員へのアンケートを基に意見交換を行うことにより、今後の実習の質を向上させるため。
実施方法	講義・ディスカッション	講義・ディスカッション	講義・ディスカッション	ディスカッション
外部・内部 所属・講師	理学療法学科 古後晴基 教授	株式会社進研アド 教育事業本部 商品部 永田なつき 様	株式会社進研アド 竹内佳輝 様	
参加人数	18名	12名	10名	16名

	第5回	第6回
名称	2026年度入学者 学生募集状況について	2026年度以降の 学生支援体制（担任、アドバイザー編成）について
対象	理学療法学科教員	理学療法学科教員
開催主催	理学療法学科	理学療法学科
開催期間	10月16日（木）	1月8日（木）
目的	過去のデータを基に、①リハビリテーション（理学・作業）のニーズ、②本学における募集状況推移、③学生募集動向分析、④受験移行率、⑤今後の展望について説明してもらうとともに、学科として今後検討していく必要があることをディスカッションした。	これまでの学生支援体制（担任、アドバイザー編成）を基に、来年度以降の体制について検討するため。なお、様々な意見が聞かれ、非常に有意義な討論会となった。
実施方法	講義・ディスカッション	講義・ディスカッション
外部・内部 所属・講師	事務部 学務課 入試・広報係 河江大樹 副主任	理学療法学科 森下元賀 学科長 教授 古後晴基 教授
参加人数	25名	15名

＜リハビリテーション学部 作業療法学科 FD＞

	第1回	第2回	第3回	第4回
名称	臨学連携推進会議	今後の広報戦略	今後の広報戦略	福祉のまちづくり動画コンテスト
対象	実習施設の指導者及び作業療法学科教員	作業療法学科教員	作業療法学科教員	作業療法学科教員
開催主催	作業療法学科	作業療法学科	作業療法学科	作業療法学科
開催期間	12月6日（土）	1月22日（木）	2月12日（木）	2月19日（木）
目的	臨床実習施設関係者と本学との連携を強化する。	どの地域、どの高校をターゲットにして広報をするのかなど具体的な広報戦略についての解説。	学科が求める学生像、年内入試と年明け入試の合格目標数など、学科教員の認識を統一して方針を立てる（具体的には、数値目標を設定を共有、オープンキャンパスでの意識改革、ガイダンス・見学会での意識改革、学科内広報活動の情報共有）。	福祉のまちづくり動画コンテストへの学生の参加の可能性を探る。
実施方法	講義・質疑応答	講義・質疑応答	講義・討論	コンテスト概要の説明・質疑応答
外部・内部所属・講師	外部講師2名及び本学教員	事務部 学務課 入試・広報係 福田 彩華 係員	事務部 学務課 入試・広報係 河江大樹 副主任	(株) CONIQ 担当者3名
参加人数	外部43名、学内14名	11名	11名	12名

5. 施設整備計画

大学の施設設備の点検を不断に行い、適切な教育研究環境を維持する。学生への情報セキュリティの徹底を行い、学内施設の ICT 教育の環境整備のより充実化を図る。

実施状況

1) 計画停電点検の実施

今年度、本学において全館・全施設を対象に計画停電の実施を行った。関連部署・企業、担当者間で連携・調整を進め、点検日当日も問題なく点検を終え、その後の復旧に伴う障害・支障もなかった。

2) モバイルバッテリーのチャージスポットの整備

ICT 教育の環境整備のより充実化を目的に、学生が所持している、iPad のモバイルバッテリーに関しチャージスポットを 1 号館、2 号館とあわせて 3 ヶ所に設置を行った。

3) 1 号館の音響機器の整備

プロジェクターならびに音響機器の更新、講義録画システムについては 1 号館 1503 大講義室、1304・1306 講義室、プロジェクターならびに音響機器の更新については

1602A 講義室について対応を行った。また、1304・1306 講義室の教室中間のディスプレイ追加工事を 3 月下旬に実施した。今後の講義録画システム導入については各学科の使用状況を踏まえ必要性等を検討する必要がある。情報管理委員会からは他の教育機器に運用の提案を受けている。

6. 財務基盤
計画

学生確保のため、学生募集に関する広報を実施するとともに、効率的な経費支出に努める。

実施状況

1) 募集活動の充実

募集定員充足率については、全体で 92.0%であり昨年に比べると 0.2 ポイント上昇したものの募集定員を 20 名削減しているため、実質の入学者数は約 20 名程度減少する結果となった。受験倍率に関しても充足率と同様の傾向を示している。

各学科の充足率は看護学科 107.5%、理学 82.5%、作業 80%とリハビリテーション学部については充足率 100%未達成の結果となった。

資料請求獲得の施策については、1 次接触点である認知および名簿獲得を目的として、高校 1 年～3 年生を対象として複数の進学媒体ツールを用いた活動を展開した。本年度の取り組みとしては、費用対効果を上げるため、業者数および費用を大幅に削減しつつ、名簿の質(次フェーズへの移行率や対象エリア・学年のセグメント)を高める施策に重きを置いた。

本年度のイベントとして、入試説明会を 6 月に実施し、オープンキャンパスを 4 シーズンに分け、計 6 回実施し、年間で 7 回の高校生徒との交流場面を設けた。

動員目標および受験移行率の目標を定めているが、本年度の夏期までの動員においては前年比 91.8%で若干減少している。

全体集客としては、年間延べ参加 937 名(うち受験対象者 673 名)であった。前年度比 91.0%(87.5%)。都道府県等のエリアにおいては福岡県が 551 名前年比 86.6%であり、福岡県下の減少が目立つ結果となっている。

成果として、当該イベントからの受験移行率については 56.5%で昨年度移行率 61.2%から 4.7 ポイント下げる結果となった。

オープンキャンパス参加者数

開催月	内容	参加者数	月間参加者数
6 月	入試説明会	220 名	220 名
7 月	オープンキャンパス	118 名	493 名
	オープンキャンパス	383 名	
8 月	オープンキャンパス	380 名	476 名
	オープンキャンパス	96 名	
9 月	オープンキャンパス	313 名	313 名
12 月	オープンキャンパス	121 名	121 名
3 月	春期オープンキャンパス	196 名	196 名

2) 入試状況

令和7年度入学生の、入試状況等は以下のとおりである。

学科	志願者	合格者	入学者
看護学科	175 名	124 名	94 名
理学療法学科	149 名	110 名	81 名
作業療法学科	66 名	52 名	27 名
計	390 名	286 名	202 名

3) 経費の効率化

引き続き経費の効率化を図るため、予算の執行状況、予算外経費を把握することに務めた。昨年同様予算どおりに経費を執行するのが難しいのが実情ではあったが、予算実行を分析することにより今後の予算策定のプロセスを考慮することができた。

7. その他

1) 国際関連に関する取り組み

- (1) 恩城（ウンソン）医療財団グループ（韓国・釜山）の相互訪問
今年度、恩城医療財団グループとの交流を昨年度に引き続き実施し、合計 5 回の相互訪問を実施した。
- (2) 高雄医科大学（台湾）の相互訪問
2024 年 4 月に本学より、高雄医科大学へ現地視察・訪問を行い、6 月に本学への訪問・意見交換会・研修・施設見学を実施した。
- (3) 釜山カトリック大学校（韓国）の本学訪問、基本合意書（MOU）締結
2024 年 7 月 11 日に本学への訪問、意見交換会を実施した。また同日に両大学の人材育成、学術交流、国際学習のためのパートナーシップを締結した。
- (4) 東儀大学（韓国）と基本合意書（MOU）締結
2024 年 12 月 16 日に現地、東儀大学へ訪問し、基本合意書（MOU）の締結を行った。

2) 内部質保証に関する取り組み

完成年度を迎え、また、令和10年度の認証評価機構の受審にむけて、内部質保証推進要項に沿って、各委員会・部署にて事業計画をたて、中間評価並びに最終評価を実施した。また、自己点検報告書についても各委員会・部署から提出のあった報告書をもとに作成し、大学ホームページへの公表にむけ準備を進める。

外部の認証評価に関し、受審する認証評価機構の「日本高等教育評価機構」より担当者が本学に来校・訪問し認証評価の受審、機構の取り組み、入会手続き等について説明をしていただいた。

3) 教員の再任審査に関する取り組み

対象の助教の教員については、昨年度検討・整備を行った再任審査の際の審査基準、また、規程・スケジュールに沿って再任審査を行った。

次年度以降も対象教員への周知を行い、同様に運用・再任審査を行う。

4) 臨床シミュレーションセンターの活動

臨床実践力を向上させるため、学部生のシミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者を育成することを目標に、臨床実践力を向上させるため、医療スタッフへの研修のシミュレーション教育に関連した学習や教材、医療技術、コース開発を支援し、地域に根ざした医療従事者の育成支援、シミ

ュレーション教育に関わる研究の質の向上を図り、令和健康科学大学の教育イノベーションを支援した。

● 学部生のセンター利用。

・看護学科：7987 名利用(延べ数)

小児看護学演習、老年看護学演習、成人看護学慢性期演習、看護臨床推論、精神看護学演習、母性看護学演習、在宅看護学演習、診療に伴う援助技術、ヘルスアセスメント、基礎看護過程実習、地域看護学演習

・理学療法学科：280 名

呼吸器系理学療法学

・作業療法学科 126 名

身体機能作業療法学

日常生活支援学演習

● 福岡和白病院院内研修と学外医療者のスタッフ利用：658 名

・福岡和白病院（4-12 月まで毎月の利用）618 名

・日本救急看護学会主催の研修（救急初療看護コース）40 名

● センター主催の患者急変対応研修：197 名

・関連病院研修（毎週火曜日午後開催）：（2026 年 2 月 197 名修了）

・地域病院向け研修 なし

● 大学院生のセンター利用

・実践看護学コース：558 名（延べ数）